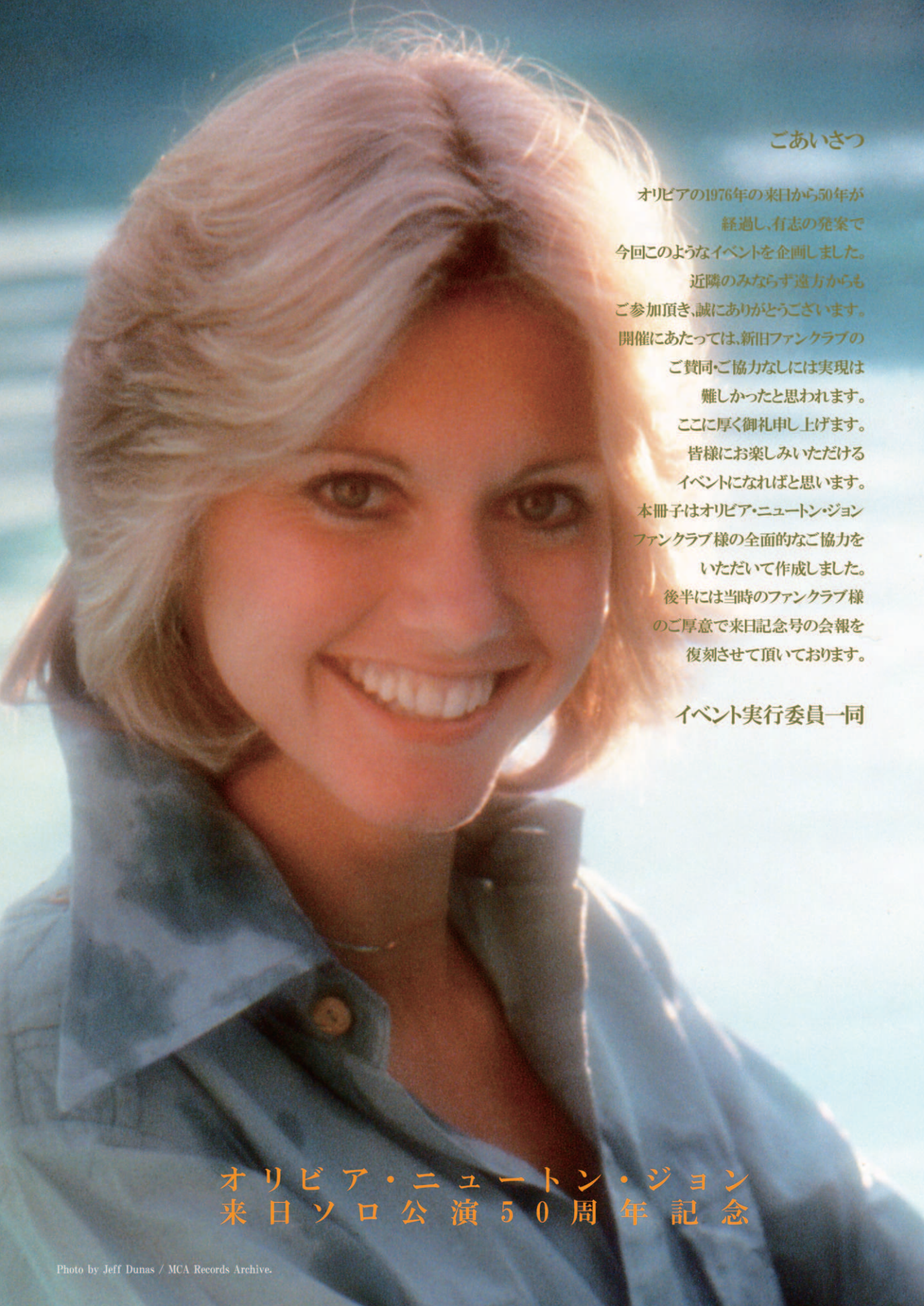
Olivia

オリビア・ニュートン・ジョン
来日ソロ公演50周年記念

来日50周年記念イベント実行委員会特別編集

OLIVIA NEWTON-JOHN・LOVE PERFORMANCE TOUR 1976 IN JAPAN

50th ANNIVERSARY SPECIAL EDITION 2026



ごあいさつ

オリビアの1976年の来日から50年が
経過し、有志の発案で
今回このようなイベントを企画しました。
近隣のみならず遠方からも
ご参加頂き、誠にありがとうございます。
開催にあたっては、新旧ファンクラブの
ご賛同・ご協力なしには実現は
難しかったと思われます。
ここに厚く御礼申し上げます。
皆様にお楽しみいただける
イベントになればと思います。
本冊子はオリビア・ニュートン・ジョン
ファンクラブ様の全面的なご協力を
いただいて作成しました。
後半には当時のファンクラブ様
のご厚意で来日記念号の会報を
復刻させて頂いております。

イベント実行委員一同

オリビア・ニュートン・ジョン
来日ソロ公演50周年記念

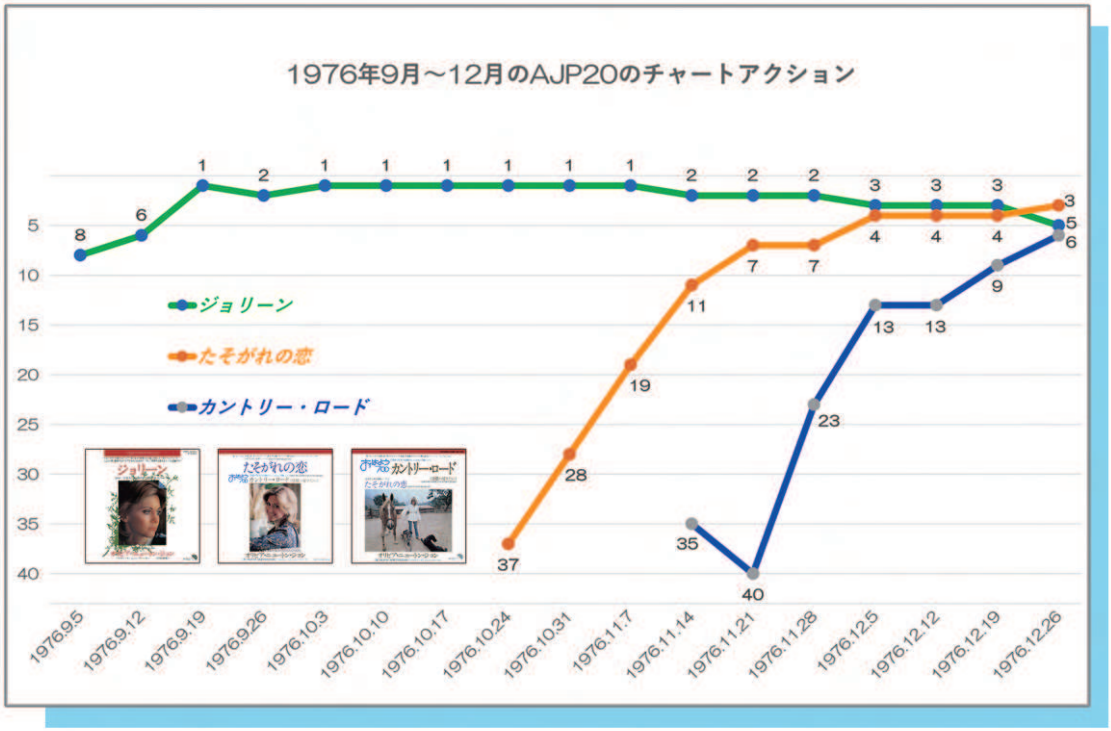
Photo by Jeff Dunas / MCA Records Archive.

1.1976年のオリビア・ニュートン・ジョン

1976年ソロとして初めての来日公演を果たしたオリビアですが、当時の日本での状況を振り返ってみたいと思います。

日本におけるソロとしてのデビューは1971年「イフ・ノット・フォー・ユー」ですが、チャートインの記録はなく続いて「バンクス・オブ・オハイオ」、「小さな心」、「君ひとすじに」をポリドールレコードから出しますが、いずれもヒットには至りません。その後1974年には東芝EMIへ移籍し「青空の天使」、「愛しい貴方」をリリースしますがこれもヒットには至りませんでした。

当時のヒットチャートはレコード売り上げのオリコンが一般的でしたが和洋合わせた総合チャートなので洋楽のヒット状況を見るにはあまり適当ではありません。そこで1967年から1985年まで文化放送を中心に全国ネットで放送されていた洋楽チャートラジオ番組のオール・ジャパン・ポップ20(AJP20)のチャートを参照して当時のオリビアの状況を見ていきましょう。



これは各放送局に寄せられたリクエストやレコードの売り上げなどを集計した洋楽総合チャート番組で、チャート自体は40位まで集計発表されていましたが放送中ではTop20の曲がランキングと共に紹介されるものでした。

1974年12月8日「愛の告白」が37位にランクインしたのがこの番組へのオリビアの初登場でした。
「愛の告白」は最高24位どまりで終わり、Top20入りは次の「レット・ミー・ビー・ゼア」を待たねばなりませんでした。「レット・ミー・ビー・ゼア」はTop20入りはしたものの最高17位どまりと今ひとつでした。日本での人気を決定づける爆発的ヒットとなったのは次のシングル「そよ風の誘惑」です。1975年4月5日発売ですが、3月8日ビルボードNo.1になっての発売でしたので当初から話題になっていました。
AJP20への登場は5月4日15位で翌週には10位とTop10入り、その後6月22日には遂に1位となります。

翌週2位に落ちたものの次週には1位に返り咲き、7月の1ヶ月間1位をキープ、その後、9月14日までTop10内に居続けるというスーパーヒットとなりました。

続く「フォロー・ミー」、「秋風のバラード」もTop10ヒットとなり、その流れで76年を迎えます。その後、ジョン・デンバーの「フライ・アウェイ」や「レット・イット・シャイン」、「一人ぼっちの囁き」とTop10ヒットが続きます。すっかりチャートの常連となったところで8月に来日が発表されます。

アメリカにおいては74年の「愛の告白」でビルボード1位と75年のグラミー賞・最優秀レコード賞をとり、その後の「そよ風の誘惑」1位、「Please Mr. Please」3位あたりで最初のピークを迎えましたが、76年になると少し翳りがみえ78年の「グリース」までは10位以内に入らないちょっとした低迷期になっていました。しかしながら日本ではまさにピークを迎えようというタイミングだったのです。来日の発表と同時期の1976年8月5日発売の「ジョリーン」は日本における最大のヒットとなります。AJP20においては8月22日付け19位に登場、トントンと駆け上がり9月19日に1位に上り詰めます。一度2位に落ちますがすぐ返り咲き11月7日まで6週連続1位、その後日本公演の終った後の12月19日まで3位以内をキープするというモンスターヒットになります。

さらにオリビア人気に拍車をかけたのが当時TBS系列で放送されていた朝の情報番組「おはよう700」の中の「キャラバンII」コーナーのテーマ曲に「カントリー・ロード」が採用され、9月27日から毎朝オリビアの声が全国のテレビから流れるという状況になったことです。

「ジョリーン」がまだヒット中の10月25日にはニュー・シングルとして「たそがれの恋」が発売されますが、当初B面扱いで「カントリー・ロード」が収録されます。

S I N G L E			A L B U M		
1975.4.5	**そよ風の誘惑**	11万7千枚	1974.12.20	**レット・ミー・ビー・ゼア**	8万9千枚
1975.11.5	秋風のバラード	1万千枚	1975.4.20	**そよ風の誘惑**	16万9千枚
1976.4.20	一人ぼっちの囁き	2千8百枚	1975.11.20	**クリアリー・ラブ**	11万枚
1976.8.5	**ジョリーン**	47万3千枚	1976.4.20	**水のなかの妖精**	37万枚
1976.10.25	**たそがれの恋/カントリー・ロード**	44万6千枚	1976.10.5	クリスタル・レディ	6万4千枚
1977.2.5	恋する瞳	4万5千枚	1976.11.25	たそがれの恋	12万4千枚

太字はゴールド・ディスク

「たそがれの恋」は11月7日付け19位に登場し、11月19日に7位とTop10入りすると翌年2月6日までTop10内をキープします。ちょうど日本をツアーしている最中、「ジョリーン」と「たそがれの恋」がTop10内にいる状況だったのです。オリビアは日本ツアー中にメルボルンの母に宛てハガキを送っていますが、その中で日本では大人気でTop10内に2曲も入っていると書いているのがまさにこのことなのです。『カントリー・ロード』はやや遅れて人気に火がつきオリビアの去った後の12月19日に9位に入り、この時点でTop10内に3曲ランクインしている事態となります。当初B面扱いだった「カントリー・ロード」はセカンド・プレス分からは両A面扱いとなり、ジャケットも折り返し4面となります。

このように1976年は日本でのオリビア人気が沸騰しピークに達した時だったのです。1975年5月4日に「そよ風の誘惑」がAPJ20にランクインして以降1977年11月20日に「きらめく光のように」がランク外となるまで2年半もの期間、常にAJP20にランク・インし続けている状態でした。そのうち1976年9月5日から1977年5月22日までは常にTop10内にランク・インしているという、とんでもない状況の中での来日公演だったというわけです。

2.オリビアの日本滞在記

1976/11/29(月)横浜公演　神奈川県民ホール　18:30
(2025.4休館、建て替え予定)

■この日は一般向けでなく相鉄ジョイナス貸し切りコンサート
■開演2時間前の午後4時半よりリハーサル、カントリーロードを入念にリハ
■ホール前ロビーには開場1時間前に千人を超すファンが集まる。受験生や女子大生、8回みるという0Lも。
■終演後9時半に楽屋を出て東京へ戻り、赤坂のステーキハウスでディナー、ステーキは少しだけでもっぱらメロンなどの果物を食べる。

1976/11/30(火)横浜公演　横浜文化体育館　18:30
(2020.9　老朽化のため取り壊し再建、2024.4　横浜BUNTAIとしてリオープン)

■東京ヒルトンホテル「竹の間」にて共同記者会見
■好きなアーチストとしてスティーヴィー・ワンダー、ドリー・パートン、エルトン・ジョン、ポール・マッカートニー、ディオンヌ・ワーウィック、ロッド・スチュワートをあげる。
■記者会見後、東芝EMI高宮社長よりゴールド・ディスク贈呈(LP　4作品「レット・ミー・ビー・ゼア」、「そよ風の誘惑」、「クリアリー・ラブ」、「水の中の妖精」、シングル　3作品「そよ風の誘惑」、「ジョリーン」、「たそがれの恋／カントリー・ロード」に対して)
■記者会見後、リムジン(リンカーンコンチネンタル)にて会場へ移動、車中でFENラジオに合わせて歌う。
■この日は白の衣装
■終演後、東京へ戻りバンドメンバーとディスコ赤坂BYBLOS(1987.2閉店)へ。居合わせた客からのサインの求めをプライベートだからと断る

当時の公演告知

1976/12/1(水)東京公演　日本武道館　18:30
(現存)

■12時原宿・表参道でショッピング、セーター、マフラー、ジャケット、膝掛けなど約25万円分の服を購入、自分で支払い。店員にファッションモデルに間違われる
■TBS　テレビ・ラジオ収録のためのリハーサルに遅刻してPM5時に武道館入り
■会場でのレコード即売3時間でLP1,800枚+シングル700枚の売り上げ記録(それまでの記録は前年のクィーンのLP500枚、通常は著名アーチストでも100枚位)
■この日も白の衣装、この日のコンサートは映像収録され12月31日に紅白の裏番組として放送、後日深夜帯に1回だけ再放送されている。

1976/12/2(木)大阪公演　フェスティバルホール　18:30
(2003、2006にも同ホール公演、2008年末閉鎖、2013年4月同地に建て替えリオープン、2015に新ホールで公演)

■午前11時12分発のひかり71号で大阪へ移動、カメラ撮影にうんざりしサングラスをかけて車中で睡眠
■大阪ロイヤルホテル(現・リーガロイヤルホテル大阪)泊

1976/12/3(金)大阪公演　フェスティバルホール　18:30
■朝十時からサウナ、その後昼近くまでホテル内のプールで水泳
■この日の衣装は赤のドレス

1976/12/4(土)大阪公演　フェスティバルホール公演
16:00, 19:00　2回公演
■1回目はピンクの衣装、2回目は赤のドレス
■旧フェスティバルホールのステージ前にはプールのようなオーケストラピット(オケピ)があって客席最前列とステージの間には距離があるのだが、1回目の公演ではこのオケピに飛び込んでステージまで上がってオリビアに花束を渡した人がいたとのこと、2回目の公演で同じようなことをしようとした人がいたらしく警備員に取り押さえられるという一幕があった。
■3,4日の大阪公演はライブ・レコーディングされ、1981年にLove Performanceとして発表される。
■終演後ホテルへの帰路、歩きたいと車を降りて歩き出したがわずか300mでファンに囲まれそうになり断念。

1976/12/5(日)休日・京都観光(オリビアの希望)
■バス貸し切りでメンバーと共に京都観光の一日。11時京都着
金閣寺から京都ハンディクラフトセンター(同場所に現存)へ移動、お土産の法被購入
■京都嵐山割烹旅館「竹生」泊(女優・浪花千栄子経営、現在は跡地に福田美術館)
京料理フルコース+舞妓であったが京料理は口に合わなかった様子。伊勢海老の活け造りにドン引き。檜のお風呂と浴衣を気に入り、以後のホテルでは寝巻には浴衣を着用していたとのこと

1976/12/6(月)福岡公演　九電記念体育館　18:30
(2019.3　閉鎖解体・跡地はマンション・福岡県福岡市中央区薬院4丁目14番1号)
■赤のドレス、7500人の観客、8割は中学生から大学生の男子、残り2割が女子
■客席を離れてステージ前に押し寄せる観客で大混乱
■スタッフ間では今ツアー最高の出来映えの評価

1976/12/7(火)広島公演　広島体育館　18:30
(1990年閉鎖建て替え、現広島県立総合体育館・広島グリーンアリーナ)
■博多発11時24分発ひかり8号で広島へ移動、車中でシュウマイを食し、大好物になる。
■コンサート前に平和記念資料館を訪れ、かなりの衝撃を受ける
■衣装はツーピースにグリーンのセーターに茶ブーツ、この日のみなぜか1曲(Nevertheless～As Time Goes By)少なく演奏された。

1976/12/8(水)名古屋公演　名古屋市民会館　18:30
(2006，2010，2015にも公演、2027.3　閉鎖・建て替え予定)
■広島ー名古屋新幹線移動　車中で雑誌「GORO」取材
■今回日本の料理で気に入ったのは餃子と。
■終演後、新幹線最終便で東京へ移動、ヒルトン着は午前1時頃、その後六本木へ食事へ。
■新幹線車中にはジャイアント馬場が同乗しており、宿泊先も同じヒルトン。直接の接触はないがホテル内のコーヒーショップ内のボーイにオリビアと同じ列車だったと喜びを語ったとのこと

1976/12/9(木)
■オフ日　午前中に武道館の収録映像をチェック。きれいに撮れていると褒めていた。
■午後には銀座にショッピングに出かけた。

Photo: MCA Records Archive.

1976/12/10(金)仙台公演
仙台スポーツセンター　18:30
(2006.3　閉鎖、跡地は仙台国際センター)
■羽田空港より全日空807便で仙台へ移動、非常に寒い一日だったとのこと
■衣装は赤いドレス、西日本とは違って観客はかなり静かだった様子。
■メルボルンの母に向け葉書投函

1976/12/11(土)郡山公演　郡山体育館　18:30
(現存)
■ピンクの衣装
■快晴の日、仙台で朝食後、商店街で買い物と勾当台公園を散策、プレゼントされたキャノンのカメラで子供の写真を撮りたがり、見知らぬ親子に声をかけるも断られる。隙を見て勝手にシャッターを切ったところ泣き出され困る。
■その後、リムジンではなくバンドメンバーと一緒にバスで郡山へ移動。
■この日も観客はかなり静かであった様子。

1976/12/12(日)
■午後　原宿のオリエンタル・バザー(2023　新店舗に近隣移転)に東洋風の置物、洋服を買いに出かけた。

1976/12/13(月)東京公演　日本武道館　15:30，18:30　2回公演
■午前中ショッピング、ソニーのカセットレコーダーとパイオニアのステレオを購入。
■この日のLP売り上げは2,200枚で記録更新
■衣装は1回目が赤、2回目は黒のドレス
■終演後ホテルの部屋で"さよならパーティ"開催、ファンクラブから扇のプレゼント、ファンからのクリスマスカード500枚が東芝EMI三好ディレクターより手渡された。

1976/12/14(火)
■午後9時10分発のパン・アメリカン830便でホノルルへ

Photo: MCA Records Archive

3.セットリスト比較

日本公演は時間も短いという声もあったようだが直前のホノルル公演と
比べても1曲入れ替えで4曲も増えておりむしろ大サービスであったことがわかる。
赤字は日本公演のみ、青字はホノルル公演のみの曲

日本公演のセットリスト

1.Love Song
2.Let It Shine
3.Please Mr. Please
4.I've Got Them Feelin' Too Good Today Blues
5.Take Me Home, Country Roads
6.The Air That I Breathe
7.Don't Stop Believin'
8.Let Me Be There
9.Pony Ride
10.Nevertheless / As Time Goes By
11.Love Is Alive
12.New Born Babe
13.Something Better to Do
14.Jolene
15.Have You Never Been Mellow
16.If You Love Me (Let Me Know)
17.I Honestly Love You

11/25 ホノルル公演のセットリスト

1.Let It Shine
2.Don't Stop Believin'
3.I've Got Them Feelin' Too Good Today Blues
4.The Air That I Breathe
5.Love Is Alive
6.New Born Babe
7.Nevertheless / As Time Goes By
8.Please Mr. Please
9.Every Face Tells a Story
10.Let Me Be There
11.If You Love Me (Let Me Know)
12.Have You Never Been Mellow
13.I Honestly Love You

武道館公演チケット

76年日本公演の映像・音源について

1.テレビ放送

12/1の武道館公演は映像収録され、TBS系列で12/31に放送されています。紅白の裏番組と言うことで今のように録画器機や複数のテレビのある家庭も少ない時代ですので見ることの出来なかった若者も多かったのではないでしょうか。年明けに1度だけ深夜帯に再放送されています。

この放送は残念ながら完全収録ではなく、また曲順も実際とはかなり変えられています。とはいえ、この時期のオリビアのライブを収録したとても貴重な映像です。

当時の雑誌記事などではルックス面のことばかりが取りあげられているけれども、この映像やラジオ放送、ライブ盤を聞く限りはオリビアの声もよく出ているし、ジョリーンの高音部、バラードもアップテンポな曲も見事にこなしており聞き所いっぱいです。そしてギター3人、キーボード2人、ベース、ドラムにコーラス3人の10人編成のバックバンドも見事です。

かつてBS-TBSにSong To Soulという名曲を掘り下げていく番組があり、ジョン・デンバーのカントリー・ロードの回で一瞬でしたがこのオリビアの歌うカントリー・ロードがカバーとして紹介されていました。その際にこの来日公演の映像が使われていましたが、以前放送された角度とは違う角度から撮られた映像が使われていました。

放送はいきなりジョリーンとカントリー・ロードという大ヒットから始まります。ポニー・ライドの終わりに上着を脱ぎますが最初のジョリーンでは既に脱いだ後で2曲目のカントリー・ロードでは上着を着ているというちょっと変な編集になっています。ネバーザレス　～アズ・タイム・ゴーズ・バイは有名なスタンダードナンバーのメドレーで77年のBBC番組“Only Olivia“の中でも歌っています。ラブ・イズ・アライブはゲイリー・ライトのカバーです。

当時の告知チラシ

途中前座として来日のランディ・エデルマンの演奏が一曲挿入されているのが不評でしたが、オリビアは次の「きらめく光のように」で彼の作品”IF Love Is Real”を取りあげています。実はオリビアのデビュー曲”Till You Say You'll Be Mine”の作者、ジャッキー・デシャノンは彼の妻で、そういうご縁もあったのでしょうか。以下放送順ですが、括弧内は実際の公演での演奏順番です。

1. ジョリーン(14)
2. カントリー・ロード(5)
3. レット・イット・シャイン(2)
4. たそがれの恋(7)
5. レット・ミー・ビー・ゼア(8)
6. ポニー・ライド(9)
7. ネバーザレス～アズ・タイム・ゴーズ・バイ(10)
8. ラブ・イズ・アライブ(11)
9. ニュー・ボーン・ベイビー(12)
10. そよ風の誘惑(15)
11. 愛のすれ違い／ランディ・エデルマン
12. 愛しい貴方(16)
13. 愛の告白(17)

Photo: MCA Records Archive.

2.ラジオ放送

この日本公演からは他にTBSラジオで放送された音源と大阪でラジオ放送された音源が存在しますので紹介しておきましょう。

(1) TBSラジオ放送音源　1976/12/1収録でテレビ放送と同じ日ですが、テレビでは放送のなかったオープニングの"Love Song"と"Feeling Too Good Today"が聞けるので貴重です。"Love Song"はイギリスの女性シンガーソングライター、Lesley Duncanの曲でElton Johnもカバーしているのは有名なところです。"Feeling Too Good Today"はアメリカのソングライターチーム、Lieber & Stollerの作品でPeggy Leeのバージョンが有名です。The Air That I BreatheはAlbert Hammond作品、Holliesのヒットで有名です。

1. Love Song(*)/2.Let It Shine /3. Feeling Too Good Today(*)/ 4.Take Me Home, Country Roads /5.The Air That I Breathe / 6.Let Me Be There /7.Pony Ride /8.New Born Babe

(2) 大阪ラジオ放送音源　1976/12/3, 4収録

後日発売されるライブ盤と同じ日の収録ですが、ライブ盤には収録されていないオープニングの"Love Song"があるのが嬉しいところです。TBSの放送ではアナウンサーの声が被っていましたがこちらはないのもありがたいです。また「カントリー・ロード」と「そよ風の誘惑」はライブ盤とはテイクが違うようですのでこれも貴重です。

1. Love Song(*) /2. Let Me Be There /3. Take Me Home, Country Roads /4. Jolene /5. Have You Never Been Mellow 6.I Honestly Love You

* TV放送、ライブ盤とも収録なし

3.ライブ盤

公式のライブ盤として「愛のパフォーマンス」(Love Performance)が1981年にリリースされています。12/2,3,4の大阪フェスティバルホール公演が録音されたとのことですが発売されたレコードには12/3,4の音源と記載されています。当初77年の4月頃にでる予定だったとのことですが、OKがでずにお蔵入りになりかけましたが81年になってリリースされました。2010年の紙ジャケ発売の際にボーナストラックとして6曲のみがCD化されています。以下LP表記の曲目です(原文ママ)

A面

1. Country Roads /2. Air That I Breathe /3.Don't Stop Believin' (2010紙ジャケ「たそがれの恋」ボーナストラック)/4. Let Me Be There/ 5.Pony Ride(2010紙ジャケ「水のなかの妖精」ボーナストラック) / 6.Never The Less ～ As Time Goes By (2010紙ジャケ「きらめく光のように」ボーナストラック)

B面

1. Love Is Alive(2010紙ジャケ「さよならは一度だけ」ボーナストラック)/ 2.New Born Babe /3. Something Better To Do (2010紙ジャケ「クリアリー・ラブ」ボーナストラック) /4. Jolene(2010紙ジャケ「水のなかの妖精」ボーナストラック) /5. Have You Never Been Mellow/6. If You Love Me (Let Me Know) /7. I Honestly Love You

愛のパフォーマンス（東芝EMI / EMS-91010）

4.ブートレグ音源(いわゆる海賊盤)

12/1の武道館公演の音源が2種類出回っています。いずれもオーディエンスによる会場録音ですが音質はそう悪くありません。完全収録ですので全体を演奏順に聞くことが出来ます。3曲目に歌われた"Please Mr. Please"だけはこうした音源でしか聞けないのが残念です。

日本ツアー中に母に宛てた絵葉書

オリビアは自らの癌研究施設への資金に充てるため何度か自分の持ち物をオークションに出しておりましたが、その中には旅先からメルボルンの母に宛てた葉書があり、1976年の日本ツアー中に出したと思われる1枚が含まれておりました。
それが下の絵葉書です。書き起こし文(原文ママ)と日本語訳を付けますのでご参照ください。

Dear Mummy, I've just finished a 3 week tour of Japan, It's been fantastic!
I'm very popular here at the moment &I have 2 records in the top 10, so, naturally, I've been very spoiled!
I'm going to Hawaii for a few days rest on the way home, which will be nice!
I will call you near to Xmas!
Keep well- happy & smiling! Love ORIBIA
P.S. That's what they call me over here!

ママ、日本での3週間のツアーを終えたところよ。
素晴らしかったわ。
私は今ここでは大人気で、トップ10内に2曲も
入ってるのよ。
すっかり舞上がっちゃってるわ。
帰りは途中ハワイで数日休む予定で、
楽しみよ。クリスマスが近づいたら電話するね。
元気で、幸せで、笑顔でいてね!
"オリビア(ORIBIA)"より
追伸:こっちでは皆さん、そう(ORIBIA)呼んでくれるのよ。

TOP10に2曲もランクインしているのは前述の通りなのと、コンサート中たくさん聞かされた日本のファンのコール「オリビア〜!」がOliviaの耳には「ORIBIA」として届いていたのはちょっと面白いですね。

Olivia

来日記念号

Vol, 7

Olivia Newton-John Fan Club of Japan

OLIVIA　IMFORMATION

○ 注目の"オリビア・ライヴ・イン・ジャパン" 大阪の4回公演全てを録音し、テープはアメリカへ。これをジョン・フェーラーが編集するので発売予定は4月頃、だそうです。

○ 日本でのオリビアの次のシングルは"恋する瞳(Compassionate Man)"日本単独のシングル・カットで2月5日発売。B面はオリビアの作詞による"若草の恋(Love You Hold The Key)"

○ 昨年11月17日、オリビアにとって、アメリカで初めてのワンマンショー番組"A Special Olivia Newton-John"がABC放送で放映されました。時間は60分で、スタジオとロケを含めて、オリビアは40回位衣装をかえ、ヘアスタイルもいろいろ。マリリン・モンローからスチュワーデスまでやるそうで、15曲ほどの歌で構成。見ものは"Pony Ride"ロスの海岸を愛馬"ジャッジ"にのって愛犬ザルゴンとともに夕焼けの中をトコトコと進んでいくというファンにとっては涙の出そうなシーン。制作費は堂々の1億5800万円。全米ネットで放映されて、視聴率はなんと48%!(NHKの朝の連続テレビ小説で40%そこそこなのですよ!)
そして、このフィルム、オリビアの来日とともにマネジャーが売り込みに来て、某放送局がその放映権をとったとのことで、今年中に放映される可能性大。ファンにとっては、今年最大のプログラムでしょうね!

○ 来日したオリビアに東芝EMIからゴールド・ディスクが贈呈されました。受賞内容は以下の通りです。

<シングル>
「そよ風の誘惑」
「ジョリーン」
「たそがれの恋 / カントリー・ロード」

<アルバム>
「レット・ミー・ビー・ゼア」
「そよ風の誘惑」
「クリアリー・ラヴ」
「水の中の妖精」

オリビア
来日前のインタビュー　（9月12日・ラス・ヴェガスにて）

―― スーパースターになった気分はどうですか？

「いい気分よ。とてもラッキーだったと思っているし、12年間の下積み時代があったけれど、2、3年前からアメリカや日本で人気が上がってきたのです」

―― 個人的にはどんな音楽が好きですか？

「バラードが好きです。気分を変えるためにアップテンポの曲もやるけど、私が心から好きなのは、じっくり歌えるバラードです。」

―― ステージでの選曲は、自分でやっているのですか？

「そうです。アルバムの選曲はジョン・ファーラーと相談します。」

―― 来日コンサートはどんな感じでやりたいと思いますか？

「日本で私のどんな曲がうけているのか、まず調べてみるつもりです。みなさんが知っている曲を歌うのが一番です。」

―― 今まで2度来日してますが、その時の印象は？

「まず、人々の印象がとても良かったです。それから食べ物 ―― 」

―― 例えば？

「テンプラ、それに神戸牛 …… 」

―― あなたの故郷、イギリスでのコンサートの予定は？

「イギリスでは、残念ながら私の曲はあまりヒットしていません。ヒットしていないからお呼びもかからないみたい。でも、ぜひイギリスでもヒットを出してみたいですね。そして来年には、イギリス・ツアーもやってみたいです。」

―― オーストラリアで歌を始めた頃、影響されたミュージシャンは？

「いろいろな人を好きになりましたし、影響をうけました。その中でもとくに好きだったのは、ディオンヌ・ワーヴィック それとジョーン・バエズでした。」

―― 映画に出演する予定は？

「映画には出てみたいと思っています。でも今までいろんな映画出演の話があったけれど、これといって私が気に入ったものはありませんでした。いい作品があれば、ぜひ出てみたいです」

Report!

OLIVIA IN JAPAN

OLIVIA JAPAN TOUR "PROGRAM"

1. Love Song
2. Let It Shine
3. Please MR. Please
4. Feelin' Too Good
5. Take Me Home, Country Roads.
6 The Air That I Breathe
7. Don't Stop Believin'
8 Let Me Be There
9 Pony Ride
10 Nevertheless ~ As Time Goes By
11 My Love Is Alive
12 New Born Babe
13 Something Better To Do
14 Jolene
15 Have You Never Been Mellow.
16 If You Love Me (Let Me Know)

<アンコール>

17 I Honestly Love You.

全17曲.

しっとりと歌いあげていく曲. 1, 3, 6, 9, 10, 12, 17.
ステージ狭しととび回り. のってる曲. 2, 4, 5, 8, 11, 14, 16.
12は、ステージに腰を下ろし、足をなげだして歌う.（場所によっては正座）
5・14はそれぞれの作者（J. デンバー, D. パートン）の名を出して、「ご存じ?」
ステージ奥にミネラル・ウォーターの入ったグラスが置かれていて. 8, 11のあとなどに. のどをうるおす。その時に "Kanpai!"
アンコール前に花束の贈呈. 渡す女性は. キョードーのアルバイトの人でFCとは関係なし。
ラストの "AI Honestly Love You…" のあと、ささやくように、"AISHITE MASU…"
ステージから去るオリビアは. なぜか両手をふって. かけていく……

◦11月28日　HANEDA

27日来日という噂の中、荷物だけが先に届いて本人はいなかったという。その翌日、11月28日、19:15着のJAL 61便は19:02に羽田に到着。

なぜか結婚式の前日のはずの荒井由実がうろついていたりした。国際線・到着ロビーはFCから5人、をはじめ、2〜30人ほどのファンが待機。20:00をすぎたころ、ガードマンと、キョードー東京の係員が通路に手をつないで並び、壁をつくる。

そして20:10、ついにオリビアがロビーに出てきた。豪華な毛皮に、すそしぼりのブルーのパンタロン姿。新聞などでは「大騒ぎ」と報道されたが、とんでもないウソで、たしかにオリビアはもみくちゃにされたが、もみくちゃにしたのは10数人のカメラマンたちの方、こちらは、通路につくられた壁の外で、ただ、見てるだけ。その中でFCと東芝EMIの花束2つを手渡すことにだけは成功。

とにかく、キョードー東京が到着日時を当日まで極秘にしていたため、27日に張っていた報道陣もいたし、FCも前日の夜、必死にきき出してくれた東芝EMIの三好ディレクターから知らせていただいた、というぐらい。

ああ、疲れた。

◦11月30日　YOKOHAMA　横浜文化体育館

一般向けには最初のコンサート。（29日神奈川県民ホールで貸切コンサート。報道陣もご招待。雑誌などの写真はここでのものがほとんど。しかし、FCは呼ばれてない。）

さすが横浜、外人さんは他のところより、多かった。

第一部と休憩で1時間ほどじらされて、いよいよ第二部。純白の衣装に身を包んでオリビア登場。照明の中に浮き上がるようなかんじで、客席からは"HO―ッ"とため息。前半は聴く方も緊張しているのか、かなり静か、手拍子もまあまあといったところ。後半、最近のヒット曲がでてくると、さすがにノってきたようで、花束を渡して握手に成功した男の子が2人ほどでてくると、後ろの席の人達が前の方へ走り出す。どこでもパラパラというふうにいるにはいたが、ここは"ドドドッ！"

あと、カメラをとりあげられる人が多く、係員がチョロチョロしてて、目ざわり。大体あんなとこでフラッシュたけば、バレるに決まってる。一応（？）"違法行為"なのだから、目立たないようにしなくっちゃ。全体的に"中学生ぐらいの男の子達は真剣に口を開いたまま聞いていて、ちょっと上になると、カメラとカセットと口笛に大ワラワ"という感じ。でも好意的なムードのコンサート。

Reported by　No.137 金子直人
No.618 門倉幸子
No.1637 鵜井俊哉
No.1693 古谷茂己
&　堀内康裕

◦12月1日　TOKYO　日本武道館

1万人以上入る日本武道館は超満員。いつもはあけてあるステージの後ろの席にまで人を入れるほど。（たぶん1,800円の自由席でしょう）1万5千人近く入ったんじゃないかな。翌2日のアダモの公演もいっしょに収録しようということで13日の録画予定がこの日に変更。2台のテレビカメラがステージの下で右へ左へ動くので今日も目ざわり。この日も純白の装いで登場。テレビカメラを十分意識してのステージを見せてくれた。

満員の客席は、人数が多いせいもあって、拍手・手拍子などもかなりなもので、ステージ・客席一体という感じ。

一人、オリビアが歌っている最中に、客席からとび出してきて、ステージにとびついて、何かを渡そうとした男の子がいたが、係員とガードマンにとりおさえられて失敗。

まさかFCの会員じゃないでしょうね!?
(Report. 堀内康裕).

◦12月2・3・4日　OSAKA　大阪フェスティバル・ホール.

この4回の公演はすべて録音され編集ののち、ライヴ・レコードになるため、それなりの緊張のようなものが、オリビアには、あった。

2回は不明、3日は赤いドレス、4日の1回目はピンクのオーバーブラウス&ラベンダーのミディ・ギャザースカートそれに茶色で模様入りのブーツ、2回目は赤いドレスにピンクの布(!?)をまとってのステージ。

さすがツアー唯一の"音楽会場"だけあって音響効果は良好。歌い方もライヴを意識してか、少しだけ違っていたし、かなりのっていたようだ。

細かい点を拾ってみると、4日の1回目"コンニチハ"と言うつもりが"コンバンワ"と言ってみたり、"ニューボーン・ベイビー"では正座して歌っていた。

客席の方は、2日は割と静かだったようだが、それ以後、特に4日の2回目などは曲のあい間にオリビアのおしゃべりがあるのだが、そのまっ最中に"Olivia〜!"の連発でオリビアはしゃべれずに笑ったまま、つっ立っていたことしばし。聴いてる方もライヴを意識しているのかもしれないが、少々行きすぎの感あり。また、シャッターを切る音がやたらとタタく、とくに"ポニー・ライド""母らぎの世界へ"などの静かな曲あたりでは迷惑至極!
全部こんなかんじでは編集の段階で一曲まるまるカットされる可能性も。

大阪フェスティバル・ホールのステージは、手前にオーケストラボックスがあって、いくらか距離があるので1日の武道館のようなことはないだろうと思っていたら大まちがい。4日の1回目ではいったんオーケストラボックスにとびこみ、ステージにかけ上がって、オリビアに花束を渡すという信じられない人がいた。2回目の第1部の時、ロビーに出ていたら、オリビアの関係者らしい外人が日本人の係員を3人ならべてすごいけんまくでまくしたてていて、日本人はペコペコ…

次では何かやるな、と思って2回目を見ていたら、ラストになって、同様のことをする人がいて、オーケストラボックスに入ったとたん"御用"なんと、係員が隠れてた。ステージにはハゲ頭のおじさんがとび出してくるし、とにかく、日本国中で一番騒がしいステージだった。

Reported by No.988 脇本源一] 2日
No.1278 林 吉洋
Bビ
岩田悦子] 3日
堀内康裕] 4日.
本多直樹

○12月6日　FUKUOKA　九電記念体育館

5日はOFF.で6日.福岡入りしたオリビア、赤いドレスに赤いスカーフ.赤いハイヒールと.赤ずくめで登場。会場は約7500人ほどの人で.超満員。ここはまたいろいろとある所で.客席の方は.よくのるにほのったが.フラッシュが数多くたかれ.横浜のように後ろから人が前に走り.(ガードマンは.全然役に立たなかったとか)プレゼントを渡すのに成功した人もいた。

そして.曲のあい間のおしゃべりのまっ最中.テープがとんできて.オリビアの胸に当たり.一瞬.表情が変わった一幕もあったり."カントリー.ロード"の歌い出しで早く出すぎて自分で笑っていたり.変化に富んだ(いい意味でも悪い意味でも)ステージだった。

Reported by No.372 坪井伸夫
No.396 冨久富男

○12月7日　HIROSHIMA　広島体育館

雨が降る.うっとうしい天気の中.オリビアは広島へ。なぜか他の公演地より1曲少ない(Nevertheless～As Time Goes By が脱落したもよう)というのでヘンな気分でレポーターからの報告をまとめていますが.3人そろって.なのでおそらく本当に抜けたらしい。衣装はツーピース(カラーは和月)にグリーンのセーター&茶色のブーツ。

ここでもステージと客席はほぼ一体。たくさんの花束.クリスマス.カードなどが贈られ.(ガードマン.いなかったのかな?)最後の頃には.ステージの下にファンが集まり.中にはステージにかけのぼったのまでいて.オリビアも一瞬笑顔を消したほど。なんと言うか.コンサートを"聴く"態度は西へ行くほど落ちていく感じ。

熱狂的になってしまって"聴く"のはそっちのけ。後出の仙台.郡山などと.総合して考えると来日アーティストがあまり地方を回らないのは.わかるような気がした。1度悪い印象を植えつけてしまうと次回の来日の際や.今後来日する他のアーティストにも影響することもあるのですよ。

Reported by No.740 足田昌雄
No.1132 橋高秀忠
No.1388 高木和行

○12月8日　NAGOYA　名古屋市民会館

レポーター志願者なし、のため　レポート不能

○12月10日　SENDAI　宮城県スポーツセンター

こちら東北。仙台はみぞれまじりの雨模様という天気の中、やっぱり、満員。赤いドレスで登場したオリビア、寒いせいか、はたまた旅の疲れからか少々のりがよくないようだったが、それでも水準以上のステージ。

寒さは確かにこたえたようで、この後オリビアのマネジャーとジョン・ファーラーがダウン。（おなかをやられたとか）。客席の方はというと大阪、福岡、広島とは一転してもの静か、人数の割には少なくて（中には手袋をはめたままで手の甲をたたいて手拍子のつもりの女の人やポケットに手をつっこんだり、腕組みしてる男の人が何人も）一体、何しに来たんだろう、というカンジ。そのくせ禁止されてるはずの写真撮影は堂々とフラッシュたいてるのがたくさんいたというから、大したものである。

Reported by　No.134 金子美貴子
No.745 岩間正之

○12月11日　KORIYAMA　郡山総合体育館

夕方ごろ、小雪がちょっぴりちらついて東北地方はやっぱり寒いことを確認。なぜ、ここまで来たかというと、ここも名古屋同様レポーターなし。2ヶ所も公演レポートが抜けたとあっては、面目が立たないので東芝EMIを通して、プロモーターのワンステップから辛うじてチケットを回してもらって、どうにかたどりついたわけ。

衣装は4日の大阪公演の1回目と同じ。しかし、6000人入った郡山総合体育館の超満員の人達の反応は3000人の大阪フェスティバルホールの半分にも満たない静けさ。2階席などは、いるのか、いないのか、わからないほど。オリビアが手拍子をさいそくした回数ではこの公演が最高だろう。

ラスト・ナンバーの「If You Love Me (Let Me Know)」が終わって、オリビアがいったんひっこむと、早くも帰ってしまう人がいたのには驚いた。

大騒ぎの関西から北の方へやって来たらまるで反応がないのだから、オリビアはどんな気持ちで歌っていたのだろう。"台風"と"冷害"の違いかな。

（堀内康裕）

○12月13日　TOKYO　日本武道館

いよいよ最終日。今日も武道館は超満員。紙ヒコーキがとびかう中を1回目の公演が始まる。ステージと客席の間にロープを張って、厳戒体制の中、赤いドレスに身をつつんだオリビアが登場。と、ここまでは良かったが反応のなんとも鈍いこと。郡山にまさるとも劣らない静けさ。その割にフラッシュは多いこと。その上、手拍子は少ないくせに叫び声だけは大したもので、アンコール前、普通オリビアは、何かしゃべるのだが、一言もしゃべれないまま「愛の告白」へ。その歌のまっ最中にムードをぶちこわしにする"オリビアー"の連発。そういう点では"最低"だった。

2回目は黒に金色をちりばめたイヴニングドレスで現れたオリビア。ラスト・コンサートらしく、おしゃべりにも、そのことが少し含まれていて、オリビアもバックのメンバーものってるみたい。客席の方も1日なみに回復(?)

ステージめがけて紙ヒコーキをとばす人もいて、オリビアのすぐわきをかすめて、オリビアが驚いていたり、ステージに舞いおりたそれを、オリビアが拾って、客席にとばす一幕もあり、HAPPYなコンサート。

相変らずフラッシュが気になるが、最後の方はラスト・コンサートらしい盛り上がりを見せ、その興奮の中で、オリビアは去っていった。

（堀内康裕）

○12月14日　HANEDA

帰国する一行は3つに分かれ、ジョン・フォーラーはパットとともにカンタス航空221便(20:30)でシドニーへ。バックの面々とランディ・エデルマンは21:30のJALでロスへ。そしてオリビアは21:00のパンアメリカン航空830便でホノルルへ。それぞれ、しばらくvacationだそうである。

19:30ごろ、オリビアを除いた一行が空港に到着。会長と宮野さんが、せっせとサインをもらって回り、一行とおしゃべり。何をしゃべったか、簡単にまとめてもらおうと思ったら、会長は「覚えてるわけがない」そうなので省略。宮野さんが「オリビア、ホントに結婚の予定はないようよ」とのこと。

20:30頃、さんざん捜し回ったオリビアが税関に突如現れる。

見送りはFCから5人、他にファンが5〜6人ほどで報道陣はゼロ。上下とも赤できめて上に模様の入ったジャケットを着たり脱いだりしながら一人で、J3スポットのラウンジへ。最後にオリビアを見ることのできる、わかれの窓口で私達に「バーイ！」と手を振って機内へ入っていった。

Olivia, Please come again!

<まとめ>

オリビアの公演は大体1時間5分～15分で17曲。時間を気にする人は"短い"という意見をくれました。

でも、コンサートも30分ほどでさっさとひっこんじゃう人もいれば3時間ぐらいやってる人もいるわけで、人それぞれ。時間ももちろん評価の対象にはなりますが、本当に評価するのなら何時間やったか、ではなく、何をやったか、つまり内容であり、内容が良ければ時間の長短は感じさせないもの。オリビアが手を抜いたのならともかく、無難にまとめた感じはありますが、彼女が精一杯やっていたことはおわかりのことと思います。ですからそのコンサート自体に満足したか、しないかではないでしょうか？

反面、オリビアのコンサートがはじめてのコンサート、という人がかなりいたせいで、聴く方の態度は"南は台風、北は冷害"そんな感じであまり良かったとは言えません。

こう言った意味で皆さんから、コンサートの率直な感想をおききしたいと思いますので100字以内で簡単に、端的に書いてお送り下さい。次号で特集したいと思います。　（送り先は堀内まで）

<プレゼント報告>

オリビアへのプレゼントは、みなさんからのクリスマス・カードの他に、ファンクラブからは舞扇。はじめは日本人形にしようか、という意見もありましたが、これは、あちらではかなり高級品に見えるらしく、税金がかかるそうなので中止。

このプレゼントは、オリビアに直接渡したかったのですが、報道陣でさえ2メートル以内に近づけないという現状のため東芝EMIの三好ディレクターにお願いして、12月13日に渡していただきました。

また、13日の最終公演日には楽屋の方へ三好ディレクターを通じて、花束を届けました。

次回発行予定は
"Olivia" Vol. 8
April 1 1977

<来日余話>
About Olivia

- ふだんのオリビアは割とラフなスタイルです。日本は寒いのでたいていコートを着ていますが、その下はTシャツにジーンズというのが主だそうです。
- 東京での宿泊所は、赤坂のヒルトン・ホテル、最上階のインペリアル・スウィートルーム。一泊約15万円だって。
- 12月4日、夜の公演終了後、大阪での宿泊所、ロイヤルホテルが近いこともあって、オリビアは一人で歩いて帰る、と言いだして車を降り、しばらく、一人歩きを楽しんだそうです。(ただし、彼女のそばには"専用車"リンカーン・コンチネンタルがぴったりついていたんだけど…)

- 12月5日は来日後初めてのOFF。メンバー全員でバスを借り切って、オリビアが来日前から「行きたい」と言っていた京都へ。
金閣寺などを見てから、和風パーティ(つまり宴会)。日本料理を食べたい、とも言っていたオリビアだけどあまり得意じゃなかったみたい。エビの活造りを見てまっ青になって早々に引き下げてもらったとか。

- 当日(コンサートの)、会場でオリビアのレコードが即売されましたが売れ行きは驚異的で、クィーンやJ・デンバーの3〜4倍、東京の1・13日だけで4000枚のアルバムが売れたそうです。さて、それについているサイン入り色紙、複製だということはすぐわかりますが、その原版となる1枚のサイン、キョードー東京の人がこっそり教えてくれたところによると、これは、なんと、"マネ書き"なのだそうです。つまり、原版がウソなら全部ウソってことになります。オリビアは、殆んどサインはしない人で来日中、実際にしたサインはわずか数枚。P18〜19のオリビア&バックミュージシャン達のサインは、オリビアのは、その数少ないうちの1枚。バックミュージシャンのは、12月14日、羽田空港で直接書いてもらったものです。

- オリビアは右利きか、左利きか? というのは来日前からの大問題。チャリティ・テニスの時は、ラケットを左手でもっていたし、ステージでのマイクも左手で。ところが12月14日、空港が通関後、サインをしてるのをちらり、と見かけたら、右手で書いてる。ロビーでジョン・ファーラー&パットは左手で書いてたし、他のメンバーは左右半々。えぇ、どっちだ!?

About F.C.

○ オリビアの来日が決定した8月頃からF.Cはチケット確保に動き始めたのですが、Hello? part3にも書いた通り、キョードー大阪では「最低500枚、買える？　買えない、あ、そう　ダメ！」というわけでチョン！（当時、会員数約1,300）　そこで東京だけは何とか、ということで、どうにか確保できるところまでこぎつけて、Hello? part3で希望者をつのったところ、その希望者が、なんとキョードー東京へ電話をして、何か言ったとかで（"本当にとれるのか？"又は"FCに回す席はどのへんか？"ぐらいのことでしょうが、正式発表前で内密に話を進めていたため）エライ人がおへソを曲げてしまい、すべて白紙。part3発行後わずか2日のことで、こちらの方も以後の分はすべて発送中止。　この電話1本が最後まで尾を引き、撮影許可は下りないし、FC独自の会見も"No!"
それまで順調に進んでいた交渉もいっせん打ち切られ、"そこまで会員に信用のないFCなら来日の後かたづけがすんだら解散しよう"という話まで出ましたが、1200通をこえる往復ハガキが来ている以上、とにかく、とると言ったものはとらないとどうにもならないので、再交渉の末、渋谷のヤマハ楽器店で1・13日約100枚ずつとれることになり、のこりの100枚ずつは発売日に買うということにして、往復ハガキを返送。
そして10月17日の発売日の2日前の10月15日の夕方から、先頭を切って陣取り、（キョードー東京に本タタクン、ソニー・ビルに編集長、この2人を中心にスタッフが交代でパートナー。この2人は、16日に本タタクンがチケット代金をとりに1回帰っただけで、17日の夕方まで家に帰れず）16日の雨、17日の冷えこみの中、どうにか希望の枚数をそろえるのに成功。ソニー・ビルでは、1人3枚の枚数制限が行なわれたが"2泊3日"いつづけた編集長の顔をガードマン全員が覚えていてくれて、当日、販売の人にうまく話してくれたので20枚、買えたのです。　スタッフは9人動員して、ソニービルでの枚数制限、ヤマハの分のチケットがTVカメラ設置のため削れたり、で、真夜中、両サイドの枚数調整のため、銀座と表参道を十数回往復したり、でかかった費用は¥32の通り。電話さえなければ下4ケタを2で割っても、おつりが来る程度ですんだのですが……。
次に来日する時にはチケットを確保するか、しないか、まだわかりませんが、やや消極的。とにかく、疲れた。
なお、席がアリーナ後方へ回ってしまった方、上記のような事情ですので、ご諒承下さい。

Musicians

Lead Guitar - John Farrar

Rhythm Guitar - Skip Griparis

Acoustic Guitar - Rick Ruskin

Bass Guitar - Abe Laborial

Drums - Peter Donald

Piano - Greg Mathieson

Steel Guitar, Synthesizer - Doug Livingston

Backing Vocals - Pat Farrar, Donna Fein,
Muffy Hendrix

"Olivia" Vol, 7

January 20 1977

編集	O.N.J F.C スタッフ
編集責任者	堀内康裕
協力	東芝EMI(三ツ子伸一、大飼幸枝)千葉敬
印刷	青々社
発行	O.N.J. F.C
発行責任者	岩田悦子.

編集後記

最初にこの企画を聞いたときには仲間数人で集まって当時の映像みるくらいに思っていましたが話をするうち、賛同協力が得られドンドン膨らんでいきました。参加者も集まらないのでは?の危惧も取り越し苦労で予定した会場を一度変更するようなことにもなりました。多くの人がオリビアを忘れずにいてくれることは嬉しい限りです。オリビアの魅力を再認識出来るようなイベントになってくれたなら幸甚です。

Photo by Charles Bush / MCA Records Archive.

東芝EMI販促ポスター

愛テマス。

Photo: MCA Records Archive

オリビア・ニュートン・ジョン来日ソロ公演50周年記念

2026年5月16日　発行

編集者: 来日50周年記念イベント実行委員会
（井澤幸一・斉藤明宏・真栄城剛）

協力: 沢田直樹/松縄眞

発行: オリビア・ニュートン・ジョン　ファンクラブ
OLIVIA NEWTON-JOHN Fan Club Japan　www.oliviafanclubjapan.com

印刷: 株式会社ブックフロント
Printed in Japan
NOT FOR SALE

オリビア・ニュートン・ジョンソロ公演50周年記念